

関西のE！（いい）情報をお届けします！

E! KANSAI

METI-Kansai 近畿経済産業局ウェブマガジン

2011

10月号

今月のコンテンツ

特集

2ページ

関西ものづくり企業 × 13人の若手デザイナー
～デザイン道場の卒業生がものづくり企業とコラボレーションして
生み出したデザイン作品を国際見本市「リビング&デザイン」に出展～

企業・地域の取組紹介のコーナー

10ページ

特殊梯子製作所 有限会社
浜田化学株式会社

関係機関情報

14ページ

独立行政法人産業技術総合研究所 関西センター

TOPICS

16ページ

「Cris 関西 2011」が始まりました！
台風12号被害に係る中小企業等への支援について

関西ものづくり企業 × 13 人の若手デザイナー

～デザイン道場の卒業生がものづくり企業とコラボレーションして
生み出したデザイン作品を国際見本市「リビング&デザイン」に出展～

担当課室：サービス産業室

グローバル競争が激化する中、価格競争に陥ってしまわないための一つの戦略として、「デザイン」を価格、機能、品質といった経営における価値軸のひとつに加え、デザインを活用したものづくりを行う「デザイン経営」の重要性が高まっています。

「デザイン経営」の実践には、ものづくり企業が商品の企画段階からデザインを取り入れることの重要性を理解した上で経営に取り組むとともに、デザイナーも素材やものづくり企業の技術力を熟知した上で、企画段階から参画することでデザイン提案能力を高めること、そして、経営戦略の中でデザインを活用するための知的財産に関する知識とマネジメント能力を身につけることが重要です。

そこで、今月号の特集では、当局主催の若手デザイナーのための知財マネジメント講座「デザイン道場」の卒業生有志らが、関西のものづくり企業とのコラボレーションで、国際見本市「リビング&デザイン」に発表したプロジェクトを「デザイン経営」の実践につながる取り組みとして紹介します。

世界で活躍する若手デザイナーを育成する「デザイン道場」

近畿経済産業局では、平成20年度から、次世代を担う若手デザイナーを対象とした知財マネジメント講座「デザイン道場」をこれまで3回開催しています。これは、デザインを戦略的に活用するための知的財産権の知識やより実践的なデザイン・マネジメント能力を若手デザイナーに体系的に身につけていただくことが目的です。



これまで開催されたデザイン道場の様子

特集

デザイン道場のカリキュラムには、デザイン・マネジメントや知的財産の保護といった知識の習得に加え、演習として、「ものづくり企業とデザイナーによる製品開発（ものづくり企業とのコラボレーション）」が組み込まれています。これは、製品カテゴリー（素材、技術等）が異なるものづくり中小企業の協力を得て、受講生が専門とするデザイン領域（プロダクト、グラフィック等）から、企業の課題解決に向けた提案を行うもので、「デザイン経営」の重要性を若手デザイナーに経験を通して身につけていただくことを狙いとしています。

デザイン道場卒業生の「リビング&デザイン」出展プロジェクトが始動

「デザイン道場」で学んだ知識や、ものづくり企業とのコラボレーションの成果を発表する場として、社団法人大阪国際見本市委員会と株式会社ダン計画研究所からの協力を得て、デザイン道場の卒業生が企画・デザインする作品を今年も国際見本市「リビング&デザイン」へ出展する機会を設けました。

デザイン道場の卒業生に出展希望者を募ったところ、フリーデザイナー、企業のインハウスデザイナー、学生から構成された有志のメンバー13人が集結し、関西のものづくり企業とそれぞれのコラボレーションによるデザイン作品の発表に向けた準備が始まりました。

3月11日の震災を受け、復興・再構築にとどまらず、デザインの中で、そこに幸せを付加したモノを創っていかう、という想いを込めて、「再幸築」—再構築に幸せをまぶしたものづくり—をテーマとし、新たな価値を付加したデザイン作品を制作しました。様々なプロダクト製品が溢れる中、使い捨てのデザインではなく、永く愛されるデザイン、そのモノがあることで幸せを感じることができるデザインを目指しました。

リビング&デザイン

これからの新しい住空間を提案する国際見本市

期間：平成23年9月14日～17日

場所：インテックス大阪



デザイナー達の打ち合わせ風景



ものづくり企業との打ち合わせ風景

出展に向けた準備は、デザイナー達がコラボレーションを行う関西のものづくり企業を探ることから始まりました。これまでデザイン道場の製品開発演習でご協力いただいた企業や、ホームページで調べた企業への飛び込みなど、デザイナー達が、それぞれの想いと、それぞれが考える課題解決に向けた形を企業に伝えました。しかしながら、これまでデザイン経営に取り組んだ経験のない企業の中には、企画段階からデザインを取り入れた商品開発を行うことの意義がなかなか伝わらなかったところがあったり、費用や時間のかかる取り組みであったことから、賛同を得るまでが、ひと苦勞でした。そして、賛同を得た後も、デザイナーが思い描く姿を形として実現する過程で、素材や技術面からの制約にぶつかって、思い通りの形にならないなど、デザイナー自身が、素材やものづくり企業の技術を理解することの重要性を、経験を通じて学びました。

プロジェクトを進める中で発生した様々な課題解決に向けて、それぞれの経験をもとに、互いにアドバイスしあって解決するなど、参加したデザイナー達が、お互いから学びあった部分も大きく、13人のメンバーとの出会いが財産となっているといった話も聞かれました。

また、今回の出展に当たっては、13人の若手デザイナー以外にも宣伝・記録のために、デザイン道場の卒業生や、神戸芸術工科大学の学生有志がプロジェクトの企画段階から参加していました。学生らにとっても、社会人と一緒になって仕事レベルの経験ができたことが、良い学びの機会となったという話が聞かれました。

そして、デザイナー達の想いに賛同した関西各地のものづくり企業から協力を得て、コラボレーションが実現し、新たな価値を付加したデザイン作品が完成しました。

ものづくり企業と若手デザイナーのコラボレーションにより完成したデザイン作品

堺注染和晒興業会（堺市）
× 石橋智香
＝注染手ぬぐいでできたストール



堺注染和晒興業会（堺市）
株式会社カムアクロス（東大阪市）
× 石橋智香
＝注染手ぬぐいでできた日傘



特集

藤為金網篩製造所（大阪市）
× 大野典子
＝スリッパ



株式会社島安汎工芸製作所(海南市)
× 大野典子
＝間伐材使用の裁縫箱



株式会社寺井板金工業（大阪市）
× 神田猛史
＝斜めに飾るS H E L F



有限会社中野モール（京都市）
× キタナカアツシ
＝モール照明



有限会社マイスター（藤井寺市）
枝澤塗装工芸（豊中市）
× 小松有紀 ＝ 組み合わせ家具



丸滋製陶株式会社（甲賀市）
× 笹川聖太
＝ 信楽透器



ROOTS FACTORY (大阪市)
 × 皿田亮朋 = 木製置き型照明



株式会社ホソカワストーンズ(東大阪市)
 × 高橋信晶 = 石器



有限会社ジーティオー (大阪市)
 × 高橋紀行
 = シリコンリング



提灯舗かわい (大阪市)
 × 竹田純
 = 吊り下げ式照明



白石封筒工業株式会社(東大阪市)
 × 竹田純
 = 封筒



有限会社和晃プラスチック(甲賀市)
 × 中島真範
 = ブロック画鋏



特集

共栄紙工株式会社（京都市）
× 中島真範
＝絹織物シール



丸一興業株式会社ボルダ事業部
（尼崎市）× 中田哲＝ダンボール



株式会社中川パッケージ（京都市）
× 西野祥平
＝特殊素材を使ったティッシュパック



いよいよ本番！「リビング&デザイン」への出展

リビング&デザイン当日、自分たちの作品の良さがどうしたら一番よく来場者に伝わるか、配置・照明などすべての面で考え尽くされた、一つの作品としてのブースが多くの来場者を引きつけていました。

デザインの力によって、そこに幸せを付加したモノを創っていかうという想いの込められた「再幸築」テーマのもとに集まった



完成したブース

13人のデザイナーたち。各々が目指す幸せのかたちは様々ですが、うまく調和を図りながら、こんな作品が日々の生活にあったら幸せな気分になれるだろうと想像させる力のあるブースに仕上がっていました。

展示ブースには、連日、多くの方が訪れ、それぞれの作品を見て、触って、感じていただくことで、参加したデザイナー達が当初期待していた以上の引き合いや反響がありました。これらが、具体的な商談につながり、次のステージへ展開することが期待されます。

「リビング&デザイン」において、若手デザイナーの発想力とものづくり企業の技術力を世界に発信する機会を得たことは、若手デザイナーとものづくり企業の双方にとって、貴重な経験となったことでしょう。



完成したブース

■ 関西のデザイン・ポテンシャル

関西には、技術力の高いものづくり企業が多数存在し、そして、ものづくりの価値を更に引き伸ばすデザイナーの力も存在します。

これからのものづくり企業にとっては、商品の企画段階から、デザインという価値軸を取り入れたものづくりを行うことで、価格競争だけに陥らない経営を行うことの重要性がますます高まっています。

そして、これからのデザイナーには、作り手の技術や想いとユーザーの満足感を両立させるために、商品開発の段階からの課題解決能力が求められます。ものが使われるシーンだけではなく、それに至る流通、商品化のプロセスから事業戦略・商品戦略といった経営の領域にいたるまで、さまざまな役割を担うデザイナーへの期待が高まっています。

様々な場面・観点からデザインにより課題を解決できるデザイナーが、この「デザイン道場」から生まれ、活躍することで、関西、そして日本の産業活性化に繋がることを願っています。

■ 若手デザイナーからのメッセージ

最後に、13人のデザイナーを代表して、プロジェクトリーダーの小松有紀さんからコメントをいただきました。

「再幸築」というコンセプトのもと、つくり手、デザイナー、消費者の3者が共に幸せになるため、ひいては社会のためになる「四方よし」のために私達デザイナーはいったい何ができるか？単なる装飾的なモノや表面的なモノではなく、本質を見つけ出しデザインという手段を用いて問題の解決を行うことができないかということに正面から取り組みました。1人では大きな力にならずとも13人が集まりそれぞれの知識・技術・ネットワークを駆使することにより、他の出展者の方にもひけをとらないブースの魅力となり、各々の作品の良さが伝わることによって、皆様の共感を得られたのではないかと考えております。また、今回本当に多くの方にご協力をしていただきました。協力企業さん、近畿経済産業局の方々、先生方、協力してくれた学生さん等、今回の展示に関わった全ての人、そしてどの部分が、欠けても成り立たなかったと思います。本当に心から皆様に感謝しています。ありがとうございました。

今、私たちに必要なことは業界や分野を超えた対話であり、お互いをまず理解することだと、今回の製作過程と展示を行うことで確信致しました。様々な人間が対話することで新しい文化やモノが生まれる。今後も今回のメンバーを通じて様々な発信をしていきたいと思っています。



展示会終了後、13人のデザイナー達と
宣伝・記録担当の道場卒業生、学生ら



13人の若手デザイナー
D×K (ディーバイケー)

http://designkansai.net/d_by_k/

本年度も、ものづくり企業とデザイナーによる製品開発をカリキュラムに含んだ「デザイン道場」を開催します。あなたも、学んでみませんか？

デザイン道場 2011

日程：平成23年11月12日(土)、26日(土)、
12月10日(土)、17日(土) 11:00～16:50

場所：KIITO (神戸商工貿易センタービル 26F) 受講料：無料

対象：デザイナー歴3～10年程度の若手デザイナー

詳細・受講申込み (10月27日(金) 17:00まで)：

<http://design-doj0.root-2002.com/>

「E! KANSAI」では、管内の特色ある企業や地域の活動を紹介するコーナーを設けました。今回は特殊梯子製作所有限会社、浜田化学株式会社をご紹介します。

小さい会社でもオンリーワンの商品を！ ～特殊梯子製作所有限会社 代表取締役 寺本隆さん～

担当課室：特許室

■現在の事業活動について

特殊梯子製作所有限会社は、収納・持ち運びに便利な伸縮タイプの梯子という他社にはない特徴ある製品を製作している会社です。1996年に特殊梯子製作所として創業しました。

伸縮タイプの梯子が製作されたきっかけは、特殊梯子製作所を設立前に経営していた、植木剪定にありました。京都のウナギの寝床のような家屋で、中庭の植木を剪定するときに梯子を運び込むのが難しかったからです。そのときに運び込みに便利な伸縮タイプの梯子が構想されました。その後、アルミ製の伸縮タイプの梯子が完成し、本格的に生産・販売を開始しました。1995年阪神・淡路大震災で一度全てが無くなってしまいましたが、そこからもう一度建て直し、今日の特特殊梯子製作所に至っています。

2007年に日本から台湾へ新幹線を投入した時には、鉄道用避難梯子として同社の梯子が初めて採用されました。それからは日本の大手鉄道会社からも注文が来るようになり、現在国内約7割の鉄道会社で同社の避難用梯子が使われています。鉄道に採用されるためには各所にメンテナンス拠点の確保が必要ですが、車両メーカー関連会社である株式会社テクノエースと連携することによってメンテナンス及び営業拠点の確保が可能となり、参入することができました。

他にも、大手ハウスメーカーや行政機関などにも梯子製品を納めています。



右：代表取締役寺本隆さん
左：三倉功さん



ロフト用の伸縮梯子
(縮めた状態)



ロフト用の伸縮梯子
(伸ばした状態)

■伸縮タイプ梯子の特徴

特殊梯子製作所が生産する伸縮タイプの梯子は、収納・持ち運びに便利な収縮タイプ梯子です。最長6m強まで伸び、最小86cmまで縮みます。幅は45cmから50cm、重さは12kgから20kgあり、接地面を傷つけずしっ

かり固定できるゴム脚がついています。

鉄道用避難梯子には、列車の仕様に合わせて個別生産しています。同社の梯子には手すりがあり、ステップも通常の梯子より広いため、乗客が前向きにステップを降りることができ、素早く避難できることが特徴です。

■小さい会社でもオンリーワンの商品を！

特殊梯子製作所はこれまでに8件ほどの特許出願をおこない、3件の特許権を取得しています。しかし、知的財産権による保護は十分ではありません。そこで、平成22年度に特許庁の「地域中小企業知的財産戦略コンサルティング事業」を活用して知的財産活用のための戦略策定について専門家の支援を受け、事業の一環として、自社が製作している分類の特許マップを作りました。これにより特許出願が集中している部分と、希薄な部分が把握でき、今後の出願すべき部分が明確にできました。寺本社長は、「特許マップを見ることで抜け道がわかる。そこをつくことでオンリーワンの商品を作ることができる。知的財産権は我々中小企業の武器であり、防具でもあるから取り組まないもったいない。知的財産権によって自社の製品を守り、将来に向けての新たな研究費・開発費の確保ができる。また、他社への技術漏洩を防ぐという点でも大事な役目を果たしてくれるので、知的財産権は大切だ。」と語っておられました。



■今後の取り組みや目標

現在、新製品としてマンションなどの避難用梯子を開発しています。従来の避難用梯子は、両端がロープでできており、その間にステップが付けられているようなものが中心です。そこで、すべてがアルミで作られ、壁に固定した状態にできる梯子を開発しました。固定することによって、急いで降りても梯子が安定したままの状態を保つことができます。

寺本社長は「身近なところに発明のチャンスがある。そこから新しい製品を作りだす。」と新たな挑戦への意欲を語っておられました。

会社名：特殊梯子製作所有限会社

URL：<http://www.super-ladder.co.jp/index.html>

所在地：兵庫県神戸市長田区苅藻島町3-3-25

電話番号：078-652-0808

静脈物流でビジネスチャンスをつかむ！

～廃食用油リサイクルで世界を目指す浜田化学株式会社～

担当課室：環境・リサイクル課

大手スーパーやコンビニエンスストアなど15000店舗から回収する廃食用油のリサイクル率（容器含む）は 99.7%！廃食用油回収量・リサイクル商品出荷量は国内有数。廃食用油リサイクルを軸に、新たな静脈物流（廃棄物の処理やそのリサイクルに関わる物流。）の開拓と海外展開を見据える浜田化学株式会社をご紹介します。

■他社と差別化する「ネットワーク」づくり

設立は1970年6月。食品産業・外食産業の伸展による食用油の大量使用という時流に乗り、廃食用油リサイクル回収事業（以下「回収事業」という。）をスタート。当初、阪神地域で回収事業を展開していましたが、廃食用油の回収量が少ない相手には運賃の一部を負担してもらって「少量廃食用油を回収する仕組み」にすることで、次第に事業範囲を広げ、今では東京都から広島県の広域で廃食用油の回収を行っています。この「少量廃食用油を回収する仕組み」こそ、他社にはない同社の強みです。

■ニーズに応える製品づくり

回収事業を展開するなかで、「廃食用油のリサイクルだけでなく、何らかのモノを介して顧客とのパイプを太くしたい。」との考えから、廃食用油由来のハンドソープづくりを開始。「手に優しく、臭いのないものがよい。」とのクライアント企業のニーズに応え、廃食用油由来の製品として国内初となる食品衛生法の「薬用」認可を取得したハンドソープが誕生しました。この薬用ハンドソープは、クライアント企業のプライベートブランド (PB) 商品となるだけでなく、大手コンビニエンスストアのトイレや厨房でも使用されるなど、同社の主力商品となっています。



PB 化された薬用ハンドソープ

その他にも、バイオディーゼル燃料（以下「BDF」という。）や飼料用油脂など、様々な廃食用油由来の製品を生産しています。BDF は、富山 BDF 株式会社と連携し、約 40t/ 月を精製しています。



食用ラード、燃料、飼料、塗料インク、工業用



BDF

また、「食品・外食産業で排出される一般廃棄物の管理」や「食肉製造工程で排出される含油脂肪分による食用ラード生産」も行っています。これらは食品リサイクル法の施行に伴う環境ニーズから生まれた事業です。

このように、同社は社会ニーズに柔軟に応えることで、事業の幅を広げています。

■海外を目指す・地域に根ざす

同社の活動範囲は国内にとどまりません。狙いは、「廃油のエネルギー資源化」と脂肪を溶かし精製して油脂にする「レンダリング」の技術移転によるタイへの展開です。


自由貿易協定 (FTA) 締結国であり、近年大きな経済成長を遂げているタイは、今後の環境ビジネスにとって重要なパートナーとなると考えられ、経済共同体の実現に向けて議論されている東南アジアへの進出も視野に、積極的な海外展開を続けています。

一方、海外展開だけでなく、国内・地域への社会貢献にも注力しています。「海外を目指すのはもちろんだが、地域にも根付いた会社でありたい。」という岡野社長の理念のもと、事業としては難しいとされる個人商店からの廃食用油の回収も進むよう、地域集約型の回収ネットワークを構築しています。また、小学校への「廃油の燃料化」の出前授業や工場見学会を行うなど、環境を通じて地域との交流にも盛んに取り組んでいます。

「ごみは、活かせばよい資源になる。」と考える岡野社長は、さまざまな廃棄物事業者の連携による一括回収・リサイクルネットワークの構築を模索しながら、新しい静脈物流の開拓を目指しています。

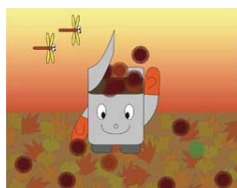


工場見学会の様子

 クリックして拡大

■『人財』を活かす

同社の理念は「社会貢献、顧客第一主義、安心・安全」。今、その根幹となる「人材」の育成と活用に力を入れています。たとえば、林経営企画室次長は、母国タイでの販路開拓交渉にあたるだけでなく、機械の修理から新たな事業展開に向けた実験まで幅広くこなすというから驚きです。このような人材を活かすことは、同社にとっての大きな強み



デザイナー経験をもつ社長
自らが考案したイメージキャラクター「トカンびん」

となります。岡野社長が目指す人材は、「社会に有用なものを生み出し、顧客に愛され、会社に利益をもたらし、会社の成長に貢献してくれる人」であり、それが同社にとっての「人財」です。

社内に研究開発部門を置かず、「社長自らが研究員です。」とにこやかに語る若き二代目社長の挑戦はこれからも続きます。



代表取締役 岡野嘉市氏 (右) と
経営企画室次長 林スバチャイ氏 (左)

会社名：浜田化学株式会社

URL：<http://www.hamadakagaku.co.jp/top.html>

所在地：〒660-0843 兵庫県尼崎市東海岸町1-4

電話番号：06-6411-3457

< 関係機関情報 >

関西地域では、数多くの優れた研究機関が集積しています。今回は当局と関わりが深い独立行政法人産業技術総合研究所 関西センターをご紹介します。

独立行政法人産業技術総合研究所 関西センター

◇産総研技術移転ベンチャー“株式会社TESニューエナジー”◇

担当課室：広報・情報システム室

この度は、産業技術力向上や産学官連携の推進等において、関西の中核的役割を担っている“独立行政法人産業技術総合研究所関西センター（以降、産総研関西センター）”と、同センターの技術を用い開発した製品で世界から注目を集めている、産総研技術移転ベンチャー“株式会社TESニューエナジー”をご紹介します。

■産総研関西センターについて

同センターの歴史は古く、1918年に創立された大阪工業技術試験所が始まりです。これまで世に出た有名な発明としては、炭素繊維、透明導電膜、ニッケル水素電池等があり、いずれも多種多様な産業界で利用されています。



現在、同センターが保有する研究ポテンシャルは、蓄電池、燃料電池、化学エネルギー、家電製品の省エネ・省資源化、材料基礎技術、単結晶ダイヤモンド、バイオマーカーの解析や検知デバイス、健康リスク計測、細胞再生技術、ソフトアクチュエーター、光生体プローブ、ヒト生理機能解析、組込みシステムの信頼性向上技術など、多岐にわたっています。

これら技術を活かし、同センターは、(1) 環境と調和する豊かな社会を目指す「グリーン・イノベーションを担うエコ家電技術」、(2) 健康に暮らせる社会を目指す「ライフ・イノベーションを担う健康工学技術」、(3) 安全・安心な社会を目指す「生活セキュリティを担う情報技術」の3つを重点領域として、持続可能な社会の実現に向けた研究開発とその成果を社会で活用するためのオープンイノベーションハブ機能の役割も担っています。

場所は、池田市と尼崎市（尼崎支所）にあり、連携コーディネート活動や技術相談にも取り組んでいますので、ぜひ一度足を運んでみられては如何でしょうか。

■産総研技術移転ベンチャー“株式会社TESニューエナジー”について

今年6月、同社は、お湯を沸かしながら携帯電話の充電が行える「発電鍋」（直径約16cm）を開発し、多くのメディアで取り上げられました。東日本大震災の被災者の方がたき火をして暖をとっている映像を見た同社の代表取締役 CEO の藤田

和博さんが「この熱をもっと有効に使えないか？」と思ったことがきっかけとなり、「安否確認のために携帯電話が必要」、「水の煮沸や食べ物を作るのには鍋が良い」ということから「発電鍋」の開発に至ったとのこと。ベースにある技術は、産総研の主任研究員で、同社の取締役でもある舟橋良次さんが、2000年に発見した熱発電に有効な新しい酸化物熱電材料です。

「発電鍋」は、発電機器の底が火により約550度になるのに対し、水の入った鍋底側が約100度になる温度差を利用して発電します。発電した電気は、USB接続により使用することができ、携帯電話であれば3～5時間でフル充電できるというから驚きです。

発電鍋を購入した方から「電気がなく、昼は仕事で勉強ができないウガンダの少女が、発電鍋のおかげで夜にLEDライトを点けて勉強することができました」という報告を聞いたと、藤田さん、舟橋さんは笑顔で語ってくれました。

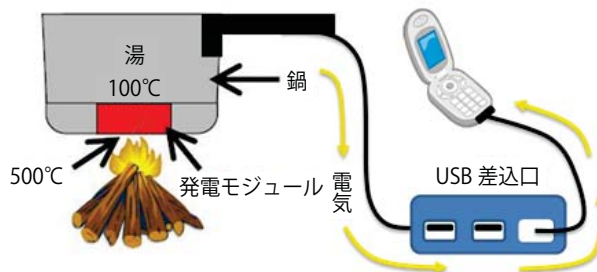


舟橋さん(左)と藤田さん(右)



発電鍋を用いた携帯電話の充電

今後は、発電効率の向上、鍋の大型化、海外への販路拡大などを進め、将来的には工業炉や自動車用電源などへの応用展開を図り、今後も新たなエネルギー創出に貢献するべく研究・開発を進めていかれるとのこと。



発電鍋の仕組み

会社名：独立行政法人産業技術総合研究所 関西センター

URL：<http://unit.aist.go.jp/kansai/>

所在地：大阪府池田市緑丘1-8-31、兵庫県尼崎市若王寺3-11-46

電話番号：072-751-9601 (池田)、06-6494-7854 (尼崎支所)

会社名：株式会社TESニューエナジー

URL：http://tes-ne.com/Japanese/02_about.html

所在地：大阪府池田市緑丘1-8-31 産業技術総合研究所 関西センター内

電話番号：072-751-1678

「CrIS 関西 2011」が始まりました！

CrIS 関西とは「クリエイティブ・インダストリー・ショーケース in 関西」の略称で、クリエイティブ・ビジネスに関連するイベントを関西各地で一定期間に集中して開催し、マーケットの形成や多様な人材交流・人材育成、情報発進力強化を目指す「お祭り」です。今年は27イベントが参加して9月から始まっています。皆様、ぜひお気に入りのイベントにお出かけください。

CrIS 関西 2011 10月開催のイベント (その他は、[CrIS 関西ホームページ](#)でご覧ください)

イベント名	日程	エリア	HP
第16回アニメーション神戸	7/28~12/27	兵庫	HP
びわ湖大津 秋の音楽祭	9/17~11/5	滋賀	HP
港で出会う芸術祭 神戸ビエンナーレ 2011	10/1~11/23	兵庫	HP
KYOTO CMEX (KYOTO Cross Media Experience) 2011	10/1~11/27	京都	HP
テクニカルコミュニケーションシンポジウム 2011	10/5~10/7	京都	HP
奈良フェスティバルイベント 吉野芸能祭 2011	10/8~10/9	奈良	HP
Japan PopCulture Festival 2011	10/8~10/9	大阪	HP
第30回 KOBE JAZZ STREET	10/8~10/9	兵庫	HP
Panasonic Beauty presents MINAMI WHEEL 2011	10/14~10/16	大阪	HP
大阪創造取引所 2011	10/18~10/19	大阪	HP
ゆるキャラ®まつり in 彦根 ~キグるミさみっと 2011~	10/22~10/23	滋賀	HP
第26回国民文化祭・京都 2011 マンガアートフェスティバル	10/29~11/6	京都	HP



大阪創造取引所

OSAKA CREATIONS EXCHANGE 2011

「大阪創造取引所 2011」

10月18日・19日開催です

大阪創造取引所は、近畿経済産業局はじめ、地域の自治体・産業界が共同で開催する西日本最大のビジネスコンテンツ展示商談イベントです。4回目となる今回は、展示・商談、ステージともますますパワーアップ！ 多数のご来場をお待ちしております。

□開催日時：2011年10月18日(火) 10:00~19:00
10月19日(水) 10:00~17:00

□会場：堂島リバーフォーラム
(大阪市福島区福島1丁目1-17 ほたるまち内
京阪中之島線「中之島駅」から徒歩約5分)

□詳細：出展企業・団体やバイヤーズサロン参加企業のリスト、ステージプログラム等の詳細は、[ホームページ](#)をご覧ください。



(お問い合わせ先) 近畿経済産業局 コンテンツ産業支援室
電話：06-6966-6053

台風12号被害に係る中小企業等への支援について

台風12号による被害に係る、奈良県及び和歌山県の災害救助法の適用を踏まえ、近畿経済産業局は、9月6日に被災中小企業者対策として①特別相談窓口の設置、②災害復旧貸付の適用、③既存債務の返済条件緩和等の対応、④小規模企業共済災害時即日貸付の措置を講じてきたところです。

更に、被災中小企業の現状とニーズを把握するため、9月6日・7日には、当局幹部及び職員が、実際に被災された中小企業者が多い奈良県及び和歌山県の商工団体を直接訪問し、被害の状況や要望についてヒアリングを実施しました。

これらを踏まえ、当局は、中小企業基盤整備機構近畿支部（以下「中小機構近畿」という）と連携しつつ、以下のような中小企業者支援を実施します。

1 被災中小企業に対する専門家の派遣

被災中小企業の要請に応じ、そのニーズに最適な専門家を被災中小企業に派遣します。（同一テーマ3回まで無料）

被災地域の商工会等に、当局が選定した上級アドバイザーを定期的に派遣し、まず同商工会等の関係者ととも被災中小企業の相談に応じます。派遣された上級アドバイザーは、被災中小企業のニーズの洗い出し・分析を行い、被災中小企業の要望に最も適した専門家を当該中小企業に派遣し、当該中小企業の直面している問題の解決を支援します。（何回でも無料：派遣可能な上級アドバイザーは約80名）

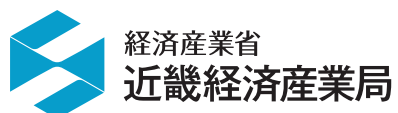
2 商工会等主催現地相談会への専門家等の派遣

商工会議所、商工会、中小企業団体中央会（これらの機関の併催等含む）が主催する「被災中小企業相談会（仮称）」に、主催者からの要請に基づき、当局及び中小機構近畿が、上級アドバイザーや経営相談等の専門家、中小機構共済事業担当者、政府系金融機関職員等を、無料で派遣します。

3 近畿経済産業局・中小機構近畿主催の現地相談会の開催

県、市町村など地方自治体、商工会議所、商工会、中小企業団体中央会からの求めに応じ、当局及び中小機構近畿が主催する現地相談会を開催し、各種支援策について詳しく説明するとともに、中小企業の個別の相談に応じます。

（お問い合わせ先）	近畿経済産業局 中小企業課 電話：06-6966-6023
-----------	----------------------------------



E!KANSAI

http://www.kansai.meti.go.jp/E_Kansai/

当電子ブックのタイトルである「E!KANSAI」は「いいかんさい」と読み、文字通り今後の関西が良い地域に発展してほしいとの願いを込めています。

また、「E」は「ECONOMY」、「ENERGY」や「ECOLOGY」などの頭文字であり、今後当局として重点的に取り組むべき大きなテーマを包含しています。

今月の表紙：「リビング&デザイン」に出展された、ものづくり企業と若手デザイナーによるコラボレーション作品のひとつです。

この冊子に対するご意見・ご要望は下記までご連絡下さい。

近畿経済産業局 広報・情報システム室

Tel : 06-6966-6009 (直通) Fax : 06-6966-6071 E-mail : kin-soumu@meti.go.jp